

ご挨拶

全国性教育研究団体連絡協議会
理事長 野津 有司

この全国大会は、1972（昭和47）年に「新しい時代の性教育を確立するために」をテーマとして京都で開催した「第1回性教育夏季セミナー」が始まりです。そして、第14回からは「全国性教育研究大会」に改称され、今大会で52回目を迎えました。

この間、「真の性教育とは何か、どうあるべきか」といった質的探究の視点と「性教育をどのように進めていくか」という実践・普及の視点の両方を重視しつつ、開催時の社会的背景や開催地の特性・状況に応じた大会が工夫されてきました。また、開催地域のニーズに応えつつ、性教育の新たな人材・エネルギーを発掘することも目指されてきました。

性教育に関しては、時によって「追い風に乗って」とか、あるいは「逆風にさらされて」といった表現で、その取組の状況等が語られることがあります。いずれの「風」も大きな影響があることは事実ですが、そうした中でも、真にあるべき性教育を地道に探究し、有意義な性教育を着実に推進することが求められています。子供たちの人格の完成と豊かな人間形成を究極の目的とする性教育が、ブーム的な勢いだけで注目される実践に偏ったり、逆に後ろ向きに低迷したり停滞したりしてはなりません。

本大会の基本テーマは『すべての子供たちに夢と希望が膨らむ性教育を』です。これまで半世紀にわたって蓄積されてきた成果を踏まえて、我が国の性教育の課題を明らかにし、さらにはその解決・改善に向けた戦略について活発に議論されることを期待しています。そして、本大会を大きなステップとして、今後の明るい展望を拓き、皆で力を合わせてさらに前進していきたいと願っています。

末筆ながら、文部科学省、子ども家庭庁、栃木県並びに宇都宮市の教育委員会はじめ多くの関係機関・団体のご後援をいただき、心より御礼申し上げます。また、国立大学法人宇都宮大学には、本大会開催にあたり格別のご厚意を賜り、深く感謝申し上げます。